

## 主な論点（案）

1. 我が国における酪農・肉用牛生産の位置づけ
2. 「畜産・酪農所得補償制度」
3. 「6次産業化」の取組等による持続可能な酪農・肉用牛生産
  - (1) 生産から加工・販売までを取り込んだ「6次産業化」の取組等による酪農・肉用牛経営の所得向上
  - (2) 需要に即した生産の推進
  - (3) 酪農・肉用牛経営におけるコスト低減・省力化
  - (4) 家畜改良や畜産新技術の開発・普及による生産性の向上
  - (5) 酪農・肉用牛における多様な経営の育成・確保
  - (6) 畜産物の高付加価値化・ブランド化
  - (7) 畜産物の輸出の促進
  - (8) 加工・流通の合理化
  - (9) アニマルウェルフェアへの対応

#### 4. 資源循環型で環境負荷軽減に資する自給飼料基盤に立脚した酪農・肉用牛生産

- (1) 資源循環型社会への貢献
- (2) 農地や未利用地のフル活用等
- (3) 耕畜連携の推進
- (4) コントラクター、TMRセンター等飼料生産支援組織の活用
- (5) 国産粗飼料の広域流通の推進
- (6) 自給飼料利用畜産物等の高付加価値化
- (7) 流通飼料の安定的な確保とエコフィード等の利用推進
- (8) 家畜排せつ物の管理の適正化と利用の促進
- (9) 畜産経営に関する排水対策・悪臭防止対策

#### 5. 消費者ニーズに応えた酪農・肉用牛の生産・加工・流通と畜産に対する国民の理解の確保

- (1) 畜産物に係る安全と信頼の確保
- (2) 多様化・高度化する消費者・実需者ニーズへの対応
- (3) 消費者・実需者ニーズを捉えた畜産物の消費拡大
- (4) 食育など畜産や畜産物に対する国民の理解の確保